

太田菜央 研究員



私たち人間は、生まれてから周りの人とのコミュニケーションを通じて言葉を学びます。今この記事を読んでいらっしゃる皆さんは、おそらく小さい頃から日本語に触れてきて、自然に日本語を理解するようになった方が多いかと思えます。中には元は外国語話者で、大人になってから努力を重ねて日本語を習得された方もいるでしょう。

小さい頃は特に意識せずともたくさんの単語や文法規則を覚え、使いこなせるようになったのに、大きくなってから外国の言葉を習得しようとする、多大な労力が伴うことは悩ましくも興味深い現象です。

実は小鳥の歌（さえずり）にも

学習に適切な時期というものが存在します。スズメ目カエデチヨウ科に属する小鳥たちは、歌を獲得する過程が人間の言葉のそれと非常に似ていることから、音声コミュニケーションの研究が昔から盛んに行われてきました。カエデチヨウ科鳥類には、文鳥やジュウシマツなど、ペットとしても人気な鳥が多数含まれます。

人間の赤ちゃんは言葉をしゃべるようになる前に、「あー」とか「だっだっ」というような意味のない音をしきりに発します。文鳥などをヒナから飼育したことがある方はご存じかもしれませんが、カエデチヨウ科鳥類も巣立つてから成鳥になるまでに、「ジュ

ーシュー、ジユクジユク」と少し濁ったような不規則な声を頻繁に発します。

これらはいずれも、言葉（歌）を適切に発することができるようになるための練習に当たる行動です。カエデチヨウ科鳥類の場合、練習を経て獲得した歌は基本的に生涯変わることはありません。



カエデチヨウ科鳥類の一種の文鳥

また、学ぶ側だけでなく、教える側の行動にも類似点があります。人間は大人が子どもに話しかける時、大人同士で話すよりもゆっくり、はっきりとした声を発する傾向がありますが、鳥でも同じような行動変化が見られます。

最近の研究では、歌を練習しているヒナに向かって親鳥が歌やジェスチャーで反応することによって、歌学習が促進されることも報告されています。人の言葉も鳥の歌も、学習のためには小さい頃の大人とのコミュニケーションが非常に重要なのです。

鳥の歌の研究は、ただ人の言葉との類似性が分かって面白いというだけでなく、失語症や吃音などの言語障がいメカニズム解明にも寄与することが期待されています。鳥たちの声は、私たちの耳を楽しませると同時に、人間の言葉にまつわるさまざまな現象を理解するヒントを与えてくれます。

ひとはく 研究員 だより

コミュニケーション

鳥のさえずり上達人と類似